

文化遺産教育研究センター企画
Center for Education and Research of Cultural Heritage planning

京焼の新たなる戦略

— 明治期における陶磁器収集品より —

Strategy of Kyoto Ceramic Ware

— Ceramic Ware Collection Purchased in Meiji Era —

2015年3月16日[月]—6月6日[土]

京都工芸繊維大学 美術工芸資料館
Museum and Archives, Kyoto Institute of Technology

開館時間：10時—17時（入館は16時30分まで）

休館日：日曜日・祝日

（但し、4月29日[水・祝]及び5月3日[日]から5月6日[水]までの間は開館いたします）

入館料：一般200円、大学生150円、高校生以下無料

（京都・大学ミュージアム連携所属大学の学生は学生証の提示により無料で入館できます）

主催：京都工芸繊維大学美術工芸資料館

企画：文化遺産教育研究センター

Date: Mon. 16 March - Sat. 6 June 2015 Hours: 10:00 - 17:00 (admission until 16:30)

Closed: every Sunday, national holiday

*except for Wed. 29 Apr. and from Sun. 3 May to Wed. 6 May

Admission: Adults 200yen / Students/college, university) 150yen /

Free for high school students and below

*Free for students of the university affiliated with University Museum Association of Kyoto

Organizers: Museum and Archives, Kyoto Institute of Technology
Plan: Center for Education and Research of Cultural Heritage

京焼名産（徳田政太郎蔵百本付）(AN1376-2)・京焼名産（中田謙吉蔵）(AN1402)・京焼名産（徳田政太郎蔵百本付）(AN1412)・京焼名産（徳田政太郎蔵百本付）(AN1422)・京焼名産（徳田政太郎蔵百本付）(AN2313)・徳田政太郎蔵（徳田政太郎蔵百本付）(AN2314)・京焼名産（徳田政太郎蔵百本付）(AN2316)・京焼名産（徳田政太郎蔵百本付）(AN2318)・京焼名産（徳田政太郎蔵百本付）(AN2390)・京焼名産（徳田政太郎蔵百本付）(AN2396)・徳田政太郎蔵（徳田政太郎蔵百本付）(AN2410)



京都工芸繊維大学の美術工芸資料館は、数多くの陶磁器作品を所蔵しています。このコレクションは、京都高等工芸学校（現京都工芸繊維大学の前身校のひとつ）が明治35年（1902）の開校以来、図案科の教材として寄贈・購入されてきたものが基礎となっています。また、昭和4年（1929）に陶磁器科が設置されていることから、陶磁器科の教材としても収集されたと考えられます。

開校当初である明治期に数多く購入された陶磁器のうち、その大半を欧米陶磁が占めていますが、一方で、僅かながら日本陶磁も見受けられます。それが鍋島を主とする九州の染付、色絵磁器でした。その後、昭和6年（1931）には、京焼をはじめ中国、朝鮮など国内外の陶磁器が数多く購入されました。履歴によると、いずれも購入元は京都の製陶家である宮永東山です。

コレクションの収集目的が教材であることに加え、同校初代学長中澤岩太が積極的に京焼の振興に取り組んでいたことから、それらの作品には、当時の京都のやきものが目指した将来像が反映されているのではないのでしょうか。

本展では、2期にわたって購入された作品から主だったもの58点を展示することにより、明治後期より京都のやきものが目指したビジョンが何であったかを探っていききたいと思います。

① 手本とされた肥前磁器（明治43年購入より）

京都高等工芸学校が開校された明治35（1902）年より、図案科の教材として数多くの陶磁器が購入されました。エミール・ミュラー、ジョルナイ、ルクウッドなど、同時代に人気を博した欧米の陶磁器が大半を占めます。これらの作品は、単なる教材にとどまらず、当時の京都の陶芸界においても貴重な手本となったと考えられます。

一方、開校当初のコレクションの中には、明治43（1910）年にまとめて購入された日本陶磁があります。記録によると、これらの陶磁器は京都の製陶家である初代宮永東山（1868-1941）より購入したとあります。東山といえば、政府役人として明治33（1900）年パリ万国博覧会事務官を務めるなど海外事情に精通しており、帰国後は製陶家として身を立て初代校長中澤岩太を中心とした陶芸業界の振興にも取り組んだ人物です。さらに、これらの日本陶磁器の特徴として、色絵や染付による磁器であること、産地の大半が鍋島をはじめ肥前であることが挙げられます。江戸時代後期に磁器生産をはじめた京都に対し、肥前では江戸初期からの歴史があり、既に完成度の高い作品を生み出していました。

これらのコレクションから、明治後期の京都の陶芸界において、欧米陶磁と共に国内では肥前磁器を参照すべき手本としていたことがうかがえます。

② 江戸時代の京焼と東洋陶磁（昭和6年購入より）

初代宮永東山より購入したと記録されるコレクションは、明治43（1910）年の他、昭和6（1931）年にもまとめて確認できます。この時期のものは、江戸時代の京焼をはじめ、日本で愛好された中国や朝鮮陶磁器が中心です。

では、具体的にどのような作品が選ばれたのでしょうか。京焼としては、江戸幕府の御用茶碗師をつとめた粟田口の岩倉山家や錦光山家の他、永楽得全（1852-1909）、初代清風与平（1803-1863）など、錚々たる顔ぶれによる作品です。その他の東洋陶磁においても中国製の龍泉窯青磁、呉州赤絵、朝鮮半島製の高麗青磁、李朝染付など日本において評価の高い古陶磁器が多くを占めています。

このようなコレクションから、これまで外に意識を向けていた京都の陶芸界が、京焼や、さらには自国

の陶芸の歴史へと関心を向け、その歴史の上に現在があるという認識を持ち得たことが推察できます。その背景には、この頃から陶磁器研究が進み、陶磁器の歴史が体系づけられていったことも影響したと考えられます。

宮永東山自身が新たな京焼を模索する中で、過去の京焼をどのように編纂し、どのような陶磁器を参照すべき対象として選んだかを知ることができる貴重なコレクションと言えるでしょう。

③ 初代宮永東山の作品（昭和6年購入より）

昭和6（1931）年にまとめて購入された陶磁器の中には、初代宮永東山自身の作品もあります。購入記録に残る当時の作品名をみると、乾山写、唐津写、古赤絵写、龍泉写など国内外のやきものの写しであることが分かります。写しとは、過去の名品を参照しつつ、作り手の解釈が加わった作品づくりで、その解釈の違いにより様々なバリエーションを生み出します。

この写しといえば、もともと京焼が得意としてきた技法です。京焼の歴史を紐解くと、様々な産地のやきものを手本としつつ、上品さと華やかさを併せ持った作品へと昇華させてきた歴史があります。

実際の作品を見ると、その文様や色彩及び技法、そして器形などから、手本となった産地が確認できます。そして、その手本としては、《I》や《II》で紹介した肥前磁器をはじめ国内外の陶磁器が指摘できます。このことから《I》や《II》で紹介した陶磁コレクションが実際に参照されたことがわかります。

また、東山の作品は、全て磁器であり、器形が豊富で全体に小さいものが多く、実際に使用する食器が中心です。それ以前の京焼は、江戸時代の茶道具、明治中期までの博覧会及び展覧会用の大花瓶が主流でした。東山の作品からは、京都の陶磁器が歩んで来た道から離れ、磁器による食器を中心とした世界へと一步を踏み出す様子がみとれます。

京焼の産地が置かれた状況も東山と共にありました。昭和初期にはそれまで京焼の中心的存在であった粟田口が輸出陶器の衰退と共に姿を消し、零細な会社や家内業の工房が多く、国内向けの磁器生産に力を注いだ清水・五条坂地域が京都のやきものの中核を担うようになっていきます。



作者不詳《染付牡丹唐草文菱形皿》(AN.1412)



作者不詳《青磁陽刻波に麒麟文鉢》(AN.2340)



初代宮永東山《赤絵染付魚文皿》(AN.2397)

同時開催

第13回村野藤吾の設計図面展

—村野藤吾の住宅デザイン

ハンガリーのデザイン

—ジョルナイ工房の陶磁器と映画ポスター

お問合せ

京都工芸繊維大学 美術工芸資料館

Museum and Archives, Kyoto Institute of Technology

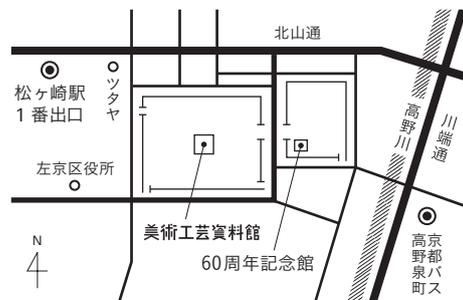
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町

Hashigami-cho Matsugasaki Sakyo-ku Kyoto 606-8585

Tel:075-724-7924 Fax:075-724-7920

E-mail:siryokan@kit.ac.jp

<http://www.museum.kit.ac.jp/>



アクセス

<地下鉄>

京都市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎駅」1番出口から右（東）へ約400m、4つ目の信号を右（南）へ約180m

<バス>

京都バス「高野泉町」下車、馬橋を渡り左へ約200m

<By Subway from Kyoto Station>

Take the "Kokusai Kaikan" bound Karasuma Line Subway to "Matsugasaki" Station, and walk east for 8 min.